

愛媛

頼れるドクター

2023-2024版

私たちの街の
ドクター
84名

巻頭記事

腸マネジメント
ライフのすすめ

巻末記事

マスク生活で増えた
お口トラブルのオーラルケア

“みんなのかりつけ医事情”大調査
安心して暮らすために知っておきたい！
愛媛県の救急医療体制の「今」

D4
循環器内科
Cardiovascular Medicine
心臓血管外科
Cardiovascular Surgery

使い分けよう！病院とクリニック

地域の病院紹介

- ・愛媛大学医学部附属病院
- ・宇和島病院 ・四国がんセンター
- ・済生会今治病院

気になる医療情報を徹底取材

不妊治療、肥満症の治療、
白内障の日帰り手術、緑内障
関節リウマチ、インプラント治療

検査・治療レポート

Doctors File

ドクターズ・ファイル

ドクターズ・ファイル 特別編集



1 設備が整った医療機関を選ぶことが鍵となる
2 眼内レンズの特徴をよく理解した上で手術に臨む

Dr.'s Advice

白内障手術は日々進化
自分に合った治療法を選択

白内障は70代以上のほとんどの方がかかる身近な病気です。手術法も眼内レンズも日々進化しています。レーザー装置を用いた白内障手術はその代表的なもの。特に多焦点眼内レンズを希望する場合は医師とよく話し合みましょう。また、高価だから最適というわけではありません。その人の目に合う眼内レンズが適切なものです。術後の見え方をイメージしておくことも大切です。

Profile

鄭 暁東 院長

中国医科大学卒業、同大学大学院修了。アメリカ留学を経て2003年に日本の医師免許を取得し、愛媛大学医学部附属病院や愛媛県立中央病院、松山赤十字病院などで研鑽を積む。2012年愛媛大学眼科准教授。屈折矯正手術・眼形成手術の分野にも注力しており、先鋭の機器を用いながら手術技術の研鑽をし、後進の育成も行う。日本眼科学会眼科専門医。

レーザー白内障手術とはどのようなものですか？
コンピュータ制御されたレーザー装置を用いて手術を行う、メスを使わない先進の治療法です。当院では安全性に配慮された白内障専用のレーザー装置を導入し、角膜切開や前囊切開、水晶体内の核の分割を高精度かつ低侵襲で行っています。従来の白内障手術では、医師が自分の手ですべての器具・機器をマニュアル操作していました。対してレーザー白内障手術では、コンピュータ制御されたレーザー装置を用いるため正確性を追求でき、人間の手では難しい角度の切開もしやすくなっています。特に高い安定性を求められる多焦点眼内レンズを用いる場合は、有用な手術法だといえるでしょう。

手術の流れを教えてください。
まずは問診と目の精密検査を行い、白内障手術の適応があれば手術に進みます。濁った水晶体の代わりに埋め込む眼内レンズには単焦点と多焦点の2種類があるため、術後の見え方を説明し、患者さんのご要望に沿って眼内レンズの種類と度数を決めます。白内障手術は基本的には片目ずつ行い、手術の平均所要時間は10分程度。術前に麻酔用の目薬をさしますので、痛みはほとんどありません。術後は眼帯や専用眼鏡で目を保護し、リハビリルームで30分ほど休憩して血圧などに異常がなければ帰宅できます。手術の翌日、翌々日に診察を行い、1週間後、2週間後、1カ月後、3カ月後、半年後に経過観察を行います。

はなみずき眼科
で受けられる診療

白内障手術専用のレーザー装置を導入した同院。高精度の3次元光干渉断層計によって前眼部の状態をリアルタイムで把握し、精密なレーザー照射によって角膜の切開、水晶体分割などを行っているという。患者の視機能を回復させることを使命と考え、先進の技術や医療機器を積極的に導入している。また、カウンセリング段階から患者の話にしっかり耳を傾け、一人ひとりの状態に合った眼内レンズを提案。丁寧な説明を行い、術後も見え方を維持するため、経過観察や定期検診を通じて適切なフォローに努めている。さらに同院の強みとして、わずかな術後屈折誤差に対して適応があればレーシック手術を行うことができる。「多焦点レンズの特徴を最大限に引き出し、安全安心の手術の提供に努めています」と鄭院長(多焦点眼内レンズを用いた白内障手術/25万円~)。



▲白内障手術、屈折矯正、眼形成を3本柱とし、トータルで対応

遠近両用の眼内レンズでより自然な見え方に
多焦点眼内レンズを用いた
レーザー白内障手術

まずは知りたい!

多焦点眼内レンズを用いたレーザー白内障手術とは

目の中でレンズの役割を果たしている水晶体が白く濁り、視力が低下する白内障。視力低下が日常生活に支障を来す場合は、濁った水晶体を取り除いて人工水晶体(眼内レンズ)を埋め込み、視力の回復をめざします。保険適用の単焦点眼内レンズと自己負担を伴う遠近両用の多焦点眼内レンズがあり、近年はコンピュータ制御されたレーザー装置を用いた手術も登場しています。



医療法人
はなみずき眼科

鄭 暁東 院長

関連記事 P128

遠近両用の多焦点眼内レンズと
レーザー装置を用いた手術で
より自然な見え方をめざす

単焦点・多焦点眼内レンズの違いを教えてください。

白内障手術で扱う眼内レンズには、単焦点と多焦点の2種類があります。従来から使われている保険適用の単焦点眼内レンズは1カ所だけにピントを合わせる眼内レンズで、最も見たい距離にピントを合わせます。例えば遠くにピントが合う単焦点眼内レンズを選んだ場合、遠くは鮮明に見えるようになりますが、近くを見るときには眼鏡が必要になります。一方、多焦点眼内レンズは遠近両方にピントが合うように設計されているため、術後は眼鏡のいらない生活が期待できます。代表的な眼内レンズは保険診療の単焦点と、選定療養の2焦点と3焦点です。技術の進歩によって新しいものが開発されますが、多焦点の場合は焦点が分散するため、単焦点に比べると鮮明度は低下する場合があります。

多焦点眼内レンズはどのような人が対象ですか？

単焦点または多焦点の眼内レンズの選択については、日常生活でよく使う焦点の場所や眼鏡の使用頻度、患者さんが術後にどのような「見え方」を希望しているかによって変わってきます。事前カウンセリングの段階で医師としっかり相談し、術後の見え方をきちんと理解した上で納得して治療に臨むことが大切です。術後に眼鏡そのものから解放されたいという場合は、多焦点眼内レンズを選ぶと良いでしょう。ただし、緑内障や糖尿病網膜症など、視神経や網膜に問題がある場合はピントを遠近のどちらか一方に合わせる単焦点眼内レンズをお勧めします。多焦点眼内レンズは光が分散するため、視神経や網膜に問題があるのかによって見えにくくなる可能性があるため、注意が必要です。



1 スムーズな診療が行えるよう院内動線にもこだわっている 2 ハナミズキと目をかけ合わせたロゴマーク 3 先端技術を駆使し難症例や緊急手術にも対応する



4 患者一人ひとりに合った治療を提供

医だ。症例を見極め、適した治療を行う。近視抑制治療の研究開発の動向に目を配るほか、就寝中に裸視力を矯正するオルソケラトロジーなどにも対応。技術や設備にこだわりながら、一人ひとりに合ったオーダーメイドの治療を行っている。

患者ファーストの診療体制
近視予防から白内障の手術までかかりつけ医として幅広く対応

地域の身近なクリニックとして、若い世代の近視や乱視から高齢者の白内障や緑内障、眼瞼下垂までのあらゆる眼科疾患をカバー

力を入れている 治療・検査

眼鏡の煩わしさから解放されたい、コンタクトレンズでは対応しきれない目のゆがみを治したい。そんな患者のニーズに応えるため、同院ではオーダーメイドのレーシック手術を導入。アメリカでは宇宙飛行士やパイロットも採用時に受けることが許可されている手術で、従来に比べて精密で安心な手術の提供をめざせるという。鄭院長は「次世代型のレーシック手術では、専用の検査機器で角膜や水晶体を精密に解析し、その患者さんに合った治療プランを作成しています」と語り、見え方の質にこだわった近視矯正手術を提供する。従来の手術より痛みを軽減をめざし、視力回復の選択肢の一つとして推奨している。



レーシック専用手術室で屈折矯正手術が行える

している同院。五藤副院長は患者が受診を決意するほど目の不調に悩まされていることを第一に考え、患者が診察室に入ってきた瞬間から観察を行っているという。「診察の際は目の病気のみなならず、ほかの病気が隠れているかもしれないという心構えを大切にしています」

眼科専門の医師である前に、医師である五藤副院長。診察中に異変を感じた場合は、その患者が少しでも早く専門の医療機関を受診できるようにアドバイスするなどこまやかに配慮している。院長も「眼科疾患は内科疾患との

関連が深いのです」と語り、視覚の質だけではなく、生活の質まで視野に入れた診療を行っている。「目の症状は一つの信号だと考え、他の疾患も念頭に入れて見落としのない診察に努めています。目の病気ではないとわかった場合も、医師として患者さんの不調に寄り添うように心がけています」と鄭院長は語る。

近年は、白内障などの手術を希望する患者が増えている同院。患者にとっては一生に一度の手術になるからこそ術前の説明から最善を尽くし、術後は休診日であっても丁寧なフォローを行っている。

※レーシック手術/両眼30万8000円(学生・特定職業従事者は別途設定あり)、オルソケラトロジー/両眼22万円

DATA		月	火	水	木	金	土	日	祝
Tel	089-958-8822	●	●	●	●	●	●	—	—
Add	松山市古川南3-16-28	○	○	○	○	—	—	—	—
Parking	有	●	○	●	○	●	—	—	—
Close	日/祝								

※○手術
※土曜受付は13:00まで

19時以降 KIDS SPACE P 駅近 19時以降 KIDS SPACE P 駅近 19時以降 KIDS SPACE P 駅近

Web版ははなみずき眼科

医療法人 はなみずき眼科 眼科

鄭 曉東 院長
Zheng Xiaodong

五藤 智子 副院長
Goto Tomoko



【左：鄭曉東院長】中国医科大学卒業、同大学大学院修了。アメリカ留学後、日本の医師免許を取得。2012年より愛媛大学眼科准教授。開業後も後進の育成に注力している。日本眼科学会眼科専門医。【右：五藤智子副院長】円錐角膜治療が専門で、一般眼科診療からコンタクトレンズ処方まで幅広く対応。日本眼科学会眼科専門医。

それぞれの専門性を生かした二診制 質の良いオーダーメイド医療の提供を

松山市の古川はなみずき通りに位置し、松山インターチェンジからもアクセス良好で多くの患者が訪れている「はなみずき眼科」。平成25年の開業以来、院長の鄭曉東先生と妻で副院長の五藤智子先生が夫婦二人三脚で患者目線の真摯な診療を行っている。当院は白内障、屈折矯正、眼形成を診療の3本柱にしています。副院長との二診制によって幅広い眼科疾患に対応できるようになりましたので、今後も互いの専門性を生かしてより多くの患者さんのお力になれたらと思っています」と院長。

大病院での診療と研究に携わってきた院長は、手術のスペシャリスト。特に難症例の白内障手術や眼瞼下垂の眼形成手術を得意とし、四国でも早期より白内障レーザー手術を導入。多焦点眼内レンズを用いた白内障手術にも対応するなど、より良い医療の提供に尽力してきた。

「新しい技術や先進の医療機器をそろえることで、その患者さんに合った治療を提供したいと考えています。特に院長は難症例の外科的治療も得意としており、松山市外や県外からいらっしゃる患者さんも多くなっていますね」

副院長は円錐角膜が専門の眼科

編集部 eyes

開業以来、夫婦で二診制を維持し、数多くの患者さんに尽くしてきた鄭先生と五藤先生。勉強熱心な鄭先生は帰宅後も文献検索や治療法を検討したり、経過の心配な患者さんがいれば休日待機し

たりと、いつも患者さんのことを第一に考えていらっしゃるそうです。お二人ともゆっくりと丁寧な口調で、小さなことでも熱意を持ってわかりやすくお話ししてくださる姿が印象的でした。